

主任 商務局
出事務官

法制局商第三九号

五月五日

佐藤

閣商第四九號

課務總務官附内
13.5.
務

榊島

昭和十三年法律第三十七號商業組合
法中改正法律、施行期日ヲ定ムル為勅
令制定、必要有之別紙勅令案及理由
書ヲ具シ此段閣議ヲ請フ

昭和十三年四月三十日

商工大臣吉野信次



内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

商甲 四九

商工省

勅令第三百三十一號

昭和十三年法律第三十七號ハ昭和十三年五月十六日ヨリ之ヲ施行ス

理 由 書

昭和十三年法律第三十七號施行ノ爲同法附則第一項ノ規定ニ基キ本
令ヲ制定スル必要アルニ由ル

参照

商業組合法中改正法律

昭和十三年三月
法律第三十七號

(内閣總理大臣
商工大臣副署)

商業組合法中左ノ通改正ス

第三條第二項中「資金ノ貸付」ノ下ニ「組合員ノ爲ニスル其ノ營業上ノ債務ノ保證」ヲ加フ

第三條ノ二 商業組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ組合員ノ取扱商品ニ付商品券ヲ發行スルコトヲ得

第三條ノ三 商業組合商品券ヲ發行シタルトキハ組合員ハ之ニ對シ其ノ取扱商品ニ付引換ノ義務ヲ負フ

第三條ノ四 商業組合商品券ヲ發行シタル場合ニ於テ其ノ組合員商品券ノ引換ヲ爲スコト能ハザルトキ又ハ其ノ引換ヲ停止シタルトキハ其ノ商業組合ハ商品券ノ所有者ニ對シ券面ニ表示シタル金額ヲ限度トシテ辨濟ノ責ヲ負フ

第三條ノ五 商品券ヲ發行シタル商業組合自ラ商品ヲ販賣スル場合ニ於テハ前三條中組合員

トアルハ組合及組合員トス

二

第三條ノ六 保管事業ヲ行フ商業組合ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ組合員ノ寄託物ニ付倉荷證券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ受ケタル商業組合ハ組合員タル寄託者ノ請求ニ因リ寄託物ノ倉荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

商法第三百八十三條ノ二第二項及第三百八十三條ノ三ノ規定ハ第一項ノ倉荷證券ニ之ヲ準用ス

第三條ノ七 前條第一項ノ許可ヲ受ケタル商業組合ノ作成スル倉荷證券ニハ商業組合倉庫證券ナル文字ヲ記載スルコトヲ要ス

商業組合ニ非ザル者ノ作成スル預證券及質入證券又ハ倉荷證券ニハ商業組合倉庫證券ナル文字ヲ記載スルコトヲ得ズ

第三條ノ八 商業組合倉庫證券ノ發行アリタル寄託物ノ保管期間ハ寄託ノ日ヨリ六月以内ト
ス

前項ノ寄託物ノ保管期間ハ六月ヲ限度トシ之ヲ更新スルコトヲ得但シ更新ノ際ニ於ケル證
券ノ所持人組合員ニ非ザルトキハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限ル

第三條ノ九 商法第三百七十五條乃至第三百七十八條及第三百八十一條乃至第三百八十三條
ノ規定ハ商業組合ガ商業組合倉庫證券ヲ發行シタル場合ニ之ヲ準用ス
第五條中「ノ一部」ヲ削ル

第七條中「行フ場合ニ於テハ」ノ下ニ「總會ノ議決ヲ經テ」ヲ加フ

第七條ノ二 商業組合前條ノ規程ニ基キ販賣價格、販賣數量其ノ他命令ノ定ムル事項ニ付決
定ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク之ヲ行政官廳ニ届出ヅベシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ決定ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第八條中「又ハ矯正スル爲」ヲ「若ハ矯正スル爲又ハ商業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲」ニ改ム

第九條中「又ハ矯正スル爲」ヲ「若ハ矯正スル爲又ハ商業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲」ニ改ム

第九條ノ二 前條ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テ行政官廳取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ店舗、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏前條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者アリト認ムルトキハ被疑者若ハ參考人ヲ尋問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件ヲ搜索シ若ハ之ガ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、尋問、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第九條ノ三 第九條ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ命令ノ效力ヲ有スル期間ヲ限リ當該商業組合ノ地區内ニ於テ新ニ當該商業ヲ營メントスル

者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第十二條第一項但書中「二以上アルトキハ」ノ下ニ「命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外」ヲ加フ

第十三條但書中「二以上アルトキハ」ノ下ニ「命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外」ヲ加フ

第十四條第一項但書ヲ削リ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ要ス但シ法人タル設立同意者ハ其ノ業務ヲ執行スル
役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

第十五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニ在リテハ第七號乃至第九號、第二十七條ノ二ノ
規定ニ依ル商業組合ニ在リテハ第六號乃至第九號及第十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ記載ス
ルコトヲ要セズ

第十五條ノ二 商業組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第二十七條ノ二第二項ノ規定ニ依リ定

款ノ作成アリタル時成立ス

第十六條 商業組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ但シ第十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合又ハ第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニ在リテハ其ノ成立後二週間以内ニ之ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ但シ第十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニ在リテハ第三號及第四號ニ掲ゲタル事項竝ニ第十五條第七號ニ掲ゲタル事項、第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニ在リテハ第三號及第四號ニ掲ゲタル事項竝ニ第十五條第七號及第十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ登記スルコトヲ要セズ

一 第十五條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲ゲタル事項

二 事務所

三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

四 第十九條ノ規定ニ依ル商業組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名又ハ名稱、住所及保證金額

五 成立ノ年月日

六 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ掲ゲタル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十七條ノ二 第三條第一項第一號及第二項竝ニ第三條ノ二ノ事業ヲ行ハザル商業組合ニ在リテハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノト爲スコトヲ得

第十七條ノ三 行政官廳當該商業ノ統制ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル商業組合ノ地區内ニ於テ其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ニ加入スベキコトヲ命ズルコトヲ得但シ其ノ組合ノ組合員數ガ其ノ組合ノ地區

内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ數ノ三分ノ二以上ナル場合ニ限ル

前項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ノ組合員トス

第一項ノ規定ニ依ル命令アリタル商業組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十一條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員又ハ組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ第十二條第一項ノ場合ニ在リテハ設立同意者又ハ設立同意者タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ、第二十七條ノ三第一項ノ場合ニ在リテハ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員タル資格ヲ有スル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ

場合ニ於ケル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十一條ノ二 第三條第一項第二號ノ事業ヲ行フ商業組合ニシテ全國ヲ地區トスルモノ、
第九條若ハ第十七條ノ三第一項ノ規定ニ依ル命令アリタル商業組合又ハ第二十七條ノ二ノ
規定ニ依ル商業組合ノ理事ノ選任及解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ
生ゼズ

組合ガ前項ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テ現ニ其ノ職ニ在ル理事ハ其ノ選任
ニ付前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一項ニ掲ゲタル組合ノ理事ノ選任ニ付テハ前條第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ受クルコトヲ
要セズ

第二十二條ノ二 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト
看做ス

前項ノ代理人ハ組合員タルコトヲ要ス但シ法人タル組合員ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スベシ

第二十三條第一項中「ノ一部」ヲ削ル

第二十六條中「又ハ定款」ヲ「定款又ハ第七條ノ規程」ニ改ム

第二十七條第四號ヲ第五號トシ同條第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 第三條ノ二又ハ第三條ノ六第一項ノ許可ノ取消

第二十七條ノ二 行政官廳當該商業ノ統制ヲ圖リ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ期スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區及組合員タル資格ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ商業組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者行政官廳ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セ

ザルトキハ行政官廳ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第二十七條ノ三 前條第一項ノ規定ニ依リ商業組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ創立總會ヲ

開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲

ス

第二十七條ノ四 行政官廳第二十七條ノ二第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ商業

組合ノ理事及監事ヲ命ズ

前項ノ理事ハ遲滞ナク總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ議決スベシ

第二十三條第二項ノ規定ハ前項ノ議決ニ之ヲ準用ス

第二十七條ノ五 第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ハ第三條第一項第一號及第二項並ニ

第三條ノ二ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第二十七條ノ六 第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合成立シタルトキハ其ノ組合ノ地區内

ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第二十七條ノ七 第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ハ其ノ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシム

ルコトヲ得ズ

第二十七條ノ八 第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十九條中「設立セントスルトキ」ノ下ニ「又ハ第三十二條ノ規定ニ依リ準用シタル第二十七

條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ設立ヲ命ゼラレタルトキ」ヲ加フ

第三十條ニ左ノ一項ヲ加フ

前二項ノ規定ハ第三十二條ノ規定ニ依リ準用シタル第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合

聯合會ニ付テハ之ヲ適用セズ

第三十一條第二項中「受クベシ」ヲ「受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ」ニ改ム

第三十二條中「商業組合ニ關スル規定ハ」ノ下ニ「第三條ノ二乃至第三條ノ五、第九條ノ三及」ヲ加ヘ同條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ第三條、第三條ノ六及第三條ノ八中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會及組合員トシ第二十一條ノ二中全國トアルハ道府縣ノ區域ヲ超ユル區域トス

第三十三條第二項中「總會又ハ創立委員會ノ決議録」ヲ「又ハ總會ノ決議録ノ謄本、組合ノ設立アリタルコトヲ證スル書面」ニ改メ同項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニシテ行政官廳ノ處分ニ因リテ成立シタルモノニ在リテハ創立總會又ハ總會ノ決議録ノ謄本、出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面、第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニシテ行政官廳ノ處分ニ因ラズシテ成立シタルモノ又ハ第十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニ在リテハ出

資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面ハ之ヲ添附スル
コトヲ要セズ

第三十七條中「第三十五條乃至第三十七條」ヲ「第三十五條、第三十六條」ニ改メ「第一百四條ノ規定」
ノ下ニ「第十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニシテ第十七條ノ三第一項ノ規定ニ依ル命令ア
リタルモノニ付テハ産業組合法第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、
第四十條乃至第四十三條、第四十四條第二項、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十一
條第三號乃至第五號、第五十二條乃至第五十八條、第六十二條第一項第三號、第六十三條ノ二、
第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條及第七十七條第三項ノ規定ヲ、其ノ他
ノモノニ付テハ産業組合法第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃
至第四十三條、第四十四條第二項、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十三條乃至第五
十八條、第六十二條第二項但書、第六十八條及第七十七條第三項ノ規定ヲ、第二十七條ノ二ノ規

定ニ依ル商業組合ニ付テハ、産業組合法第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十三條、第四十四條第二項、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十一條第三號乃至第五號、第五十二條乃至第五十八條、第六十二條第一項第一號第三號、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條及第七十七條第三項ノ規定ヲ除クニテ加フ

第三十七條ノ二 左ノ場合ニ於テハ、商業組合ノ理事、監事又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 第三條ノ二ノ規定ニ違反シ行政官廳ノ許可ヲ受ケズシテ又ハ第二十七條第四號ノ規定ニ依ル處分ニ違反シテ商品券ヲ發行シタルトキ
- 二 第三條ノ六ノ規定ニ違反シ行政官廳ノ許可ヲ受ケズシテ又ハ第二十七條第四號ノ規定ニ依ル處分ニ違反シテ商業組合倉庫證券ヲ發行シタルトキ

第三十八條第三號ヲ第四號トシ以下順次繰下ゲ同條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三 本法ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキ

第三十九條中「第四條第二項」ノ下ニ「第三十二條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム」ヲ加フ

第四十條中「前二條」ヲ「前三條」ニ改ム

第四十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第九條ノ規定(第三十二條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者

二 第九條ノ三ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ商業ヲ營ミタル者、商業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ガ其ノ營業ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十二條ノ二 正當ノ理由ナクシテ第九條ノ二ノ規定(第三十二條ノ規定ニ依リ準用スル

場合ヲ含ムニ依ル當該官吏ノ臨檢、檢査、搜索又ハ差押ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條中「五百圓」ヲ「千圓」ニ改ム

第四十七條 商業組合中央會ハ商業組合及商業組合聯合會ノ普及、發達及聯絡ヲ圖ル目的ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

商業組合中央會ハ法人トス

第四十八條 商業組合中央會ハ其ノ名稱中ニ商業組合中央會ナル文字ヲ用フベシ

第四十九條 商業組合中央會ハ全國ヲ通ジテ一箇トシ其ノ設立ハ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

商業組合中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 商業組合及商業組合聯合會ハ商業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

前項以外ノ者ト雖モ定款ノ定ムル所ニ依リ商業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

一八

第五十一條 商業組合中央會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 事務所ノ所在地
- 四 會員ノ加入及脫退ニ關スル規定
- 五 會員ノ權利義務ニ關スル規定
- 六 資産ニ關スル規定
- 七 事業及其ノ執行ニ關スル規定
- 八 役員ニ關スル規定
- 九 會議ニ關スル規定

十 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第五十二條 商業組合中央會設立ノ認可アリタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ

登記ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ

一 前條第一號、第二號及第十號ニ掲ゲタル事項

二 事務所

三 資産ノ總額

四 設立認可ノ年月日

五 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ掲ゲタル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後二月以内ニ登記ヲ爲スコト

ヲ得

第五十三條 商業組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クベシ

第五十四條 商業組合中央會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ會員タル商業組合若ハ商業組合聯合會ノ理事若ハ監事又ハ第五十條第二項ノ會員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ中央會設立當時ノ理事及監事ノ選任方法ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第五十五條 第四條第二項、第二十條、第二十二條、第二十四條、第二十六條、第二十七條及第三十三條乃至第四十條ノ規定ハ商業組合中央會ニ之ヲ準用ス但シ第三十七條ノ規定ニ依リ準用シタル非訟事件手續法第四百一條並ニ産業組合法第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十八條、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條、第七十七條第三項及第七十八條ノ規定ヲ除ク

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條ノ二第一項(第三十二條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ該當スル商業組合又ハ商業組合聯合會ノ理事ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者ハ其ノ選任ニ付同條ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

登録税法第十九條第七號中「商業組合聯合會」ノ下ニ「商業組合中央會」ヲ加フ

商甲五〇

昭和十三年五月四日

内閣書記官長

内閣書記官



昭和十三年五月七日



内閣總理大臣 友

法制局長官



外務大臣

友

陸軍大臣

友

文部大臣

友

逓信大臣

友

厚生大臣

友

内務大臣

友

海軍大臣

友

農林大臣

友

鐵道大臣

友

大藏大臣

興

司法大臣

友

商工大臣

友

拓務大臣

友

別紙商工大臣請議商業組合中央會ノ

設立ニ關スル件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕商業組合中央會ノ設立ニ關スル件
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年五月十三日

内閣總理大臣

商工大臣

呈案附箋ノ通

主任 商務局
出事務官

法制局商第四〇号

五月廿日

閣商第五〇號

商業組合中央會、設立ニ關スル勅令制定、必要有之別紙勅令案及理由書ヲ具シ此段閣議ヲ請フ

昭和十三年四月三十日

商工大臣吉野信次



内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

商甲五〇

商工省



勅令第三百三十二號

第一條 商業組合中央會ヲ設立セントスルトキハ商業組合又ハ商業

組合聯合會發起人ト爲リ商業組合及商業組合聯合會總數ノ三分ノ

二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定

メ理事及監事ヲ選任スベシ

創立總會ヲ招集スルニハ少クトモ五日前ニ會議ノ目的タル事項、

日時及場所ヲ設立同意者ニ通知スベシ

創立總會ニ於ケル議決竝ニ理事及監事ノ選任ハ設立同意者ノ三分

ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第二條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得但シ設立同意者ニ非ザレバ代理人タルコトヲ得ズ

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スベシ

第三條 商業組合中央會ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ベシ

第四條 創立總會終結シタルトキハ發起人ハ遲滞ナク第一條第一項ノ設立同意者アリタルコトヲ證スル書面、定款、創立總會ノ決議録ノ謄本及左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ設立認可申請書ヲ商工大臣ニ差出スベシ

一 事業計畫

- 二 商業組合中央會ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法
- 三 理事及監事ノ氏名及住所
- 四 初年度ノ經費ノ收支豫算

附 則

本令ハ昭和十三年法律第三十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理 由 書

昭和十三年法律第三十七號第四十九條第二項及第五十四條ノ規定ニ
基キ商業組合中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項及中央會設立當時ノ
役員ノ選任方法ヲ規定スル必要アルニ由ル

參照

朕貿易組合中央會設立ニ關スル件ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十二年九月六日

内閣總理大臣 公爵 近衛 文麿
商工大臣 吉野 信次

勅令第四百七十九號（官報 九月七日）

第一條 貿易組合中央會ヲ設立セントスル
トキハ貿易組合又ハ貿易組合聯合會發起
人ト爲リ貿易組合及貿易組合聯合會總數
ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ
開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ理事
及監事ヲ選任スベシ
創立總會ヲ招集スルニハ少クトモ五日
前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ設
立同意者ニ通知スベシ
創立總會ニ於ケル議決竝ニ理事及監事ノ
選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意
ヲ以テ之ヲ爲ス

第二條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理
人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得但シ

設立同意者ニ非ザレバ代理人タルコトヲ得ズ

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スベシ

第三條 貿易組合中央會ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ベシ

第四條 創立總會終結シタルトキハ發起人ハ遲滞ナク第一條第一項ノ設立同意者アリタルコトヲ證スル書面、定款、創立總會ノ決議録ノ謄本及左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ設立認可申請書ヲ商工大臣ニ差出スベシ

- 一 事業計畫
- 二 貿易組合中央會ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法
- 三 理事及監事ノ氏名及住所
- 四 初年度ノ經費ノ收支豫算

附則

本令ハ貿易組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大甲一〇三

昭和十三年五月十七日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十三年五月十七日
昭和十三年五月十九日
公布

内閣總理大臣 齋藤

法制局長官

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

遞信大臣

厚生大臣

内務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

別紙大藏大臣請議庶民金庫法施行期

日ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

去 司 局



閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕庶民金庫法施行期日ノ件ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年五月十八日

内閣總理大臣

内務大臣

大藏大臣

呈案ノ通

法制局

密

法制局大藏七一號

五月拾參日

官秘第八四號

庶民金庫法第四十二條ニ依リ同法施行期日ヲ定ムルノ必要有之候條別
紙勅令案ヲ具シ茲ニ閣議ヲ請フ

昭和十三年五月十三日

大藏大臣 賀屋 興 宣



內閣總理大臣 公爵 近衛 文磨 殿

主任者 銀行局長 岸 大藏書記官

官内 13 席

大甲 一〇三

大藏省

勅令第三百五十九號

庶民金庫法ハ昭和十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

大藏省

理由書

庶民金庫法第四十二條ノ規定ニ依リ施行期日ヲ定ムルノ要アルニ由ル

大藏省

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル庶民
金庫法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム

御名 御璽

昭和十三年三月三十一日

内閣總理大臣 公爵 近衛 文麿
大藏大臣 賀屋 興宣
内務大臣 末次 信正

法律第五十八號

庶民金庫法

第一章 總則

第一條 庶民金庫ハ庶民金融ノ圓滑ヲ圖ル
コトヲ目的トス
庶民金庫ハ法人トス
第二條 庶民金庫ハ主タル事務所ヲ東京市
ニ置ク

庶民金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ノ
地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

第三條 庶民金庫ハ銀行、無盡會社及産業
組合法第一條第四項ノ規定ニ依リ手形ノ
割引又ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合（以
下金融機關ト總稱ス）ヲシテ業務ノ一部
ヲ代理セシムルコトヲ得

庶民金庫ハ金融機關ヲシテ業務ノ一部ヲ
代理セシメントスルトキハ主務大臣ノ認
可ヲ受クベシ
金融機關ハ庶民金庫ノ貸付ヲ代理シタル
場合ニ於テハ庶民金庫ニ對シ債務者ノ爲
ニ命令ノ定ムル所ニ依リ債務ノ保證ヲ爲
スコトヲ得

第四條 庶民金庫ノ資本金ハ千萬元トス但
シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコ
トヲ得

第五條 政府ハ千萬元ヲ庶民金庫ニ出資ス
ベシ
前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ爲
スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ大藏大臣之ヲ定ム

第六條 庶民金庫ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

一 目的

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 資本金額及資産ニ關スル事項

五 役員及會議ニ關スル事項

六 業務及其ノ執行ニ關スル事項

七 庶民債券ノ發行ニ關スル事項

八 會計ニ關スル事項

九 公告ノ方法

定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

第七條 庶民金庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第八條 庶民金庫ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ庶民金庫ノ事業ニ對シテハ地方稅

ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 庶民金庫ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 庶民金庫ニ非ザル者ハ庶民金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第二章 役員

第十一條 庶民金庫ニ理事長一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十二條 理事長ハ庶民金庫ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ庶民金庫ヲ代表シ、理事長ヲ輔佐シテ庶民金庫ノ業務ヲ掌理シ、理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ、理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ庶民金庫ノ業務ヲ監査ス

第十三條 理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ命ズ

庶民金庫ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間庶民金庫ノ

理事長、理事及監事ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
理事長及理事ノ任期ハ三年、監事ノ任期ハ二年トス

第十四條 理事長及理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ從タル事務所ノ業務ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スルコトヲ得

第十五條 理事長及理事ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 庶民金庫ニ評議員若干人ヲ置キ主務大臣之ヲ命ズ

評議員ハ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ付理事長ノ諮問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得
評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年トス

第三章 業務

第十七條 庶民金庫ハ左ノ業務ヲ行フ
一 割賦償還又ハ定期償還ノ方法ニ依ル小口貸付

二 金融機關ニ對スル小口貸付資金ノ融通

三 金融機關ノ爲ニスル小口貸付ノ損失補償

四 庶民金庫ト前各號ノ取引ヲ爲ス者ノ預金ノ受入

五 前各號ノ業務ニ附帶スル事業

第十八條 庶民金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ

一 國債、地方債又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ取得ヲ爲スコト

二 大藏省預金部若ハ銀行ヘノ預金又ハ郵便貯金ト爲スコト

第四章 庶民債券

第十九條 庶民金庫ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ庶民債券ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ貸付金及所有ニ係ル有價證券ノ現在高ヲ超過スルコトヲ得ズ

第二十條 庶民債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得
庶民債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十一條 庶民金庫ハ庶民債券借換ノ爲

一時第十九條ノ制限ニ依ラズ庶民債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ庶民債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊庶民債券ヲ償還スベシ

第二十二條 政府ハ庶民債券ニ付額面金額現在高最高一億圓ヲ限リ其ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得

政府ガ元本ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證シタル庶民債券ノ借換ノ爲前條ノ規定ニ依リ庶民債券ヲ發行スル場合ニ在リテハ其ノ庶民債券分ニ付テハ前項ノ制限ヲ超ユルコトヲ得

第二十三條 庶民債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十四條 庶民金庫ニ於テ庶民債券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十五條 庶民債券ノ消滅時効ハ元金ニ在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第二十六條 所得税法、資本利子税法及有價證券移轉税法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ庶民債券ニ之ヲ準用ス

第二十七條 本章ニ規定スルモノヲ除クノ外庶民債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 會計

第二十八條 庶民金庫ノ事業年度ハ一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第二十九條 庶民金庫ノ剩餘金ハ之ヲ配當セズ

第三十條 庶民金庫ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於テ財産目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

債權者ハ業務時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第六章 監督

第三十一條 庶民金庫ハ大藏大臣之ヲ監督ス

第三十二條 庶民金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十三條 庶民金庫ハ毎事業年度ノ初ニ於テ貸付利率、融通利率及補償料ノ最高限度其ノ他貸付、融通及補償ニ關スル條

件ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第三十四條 主務大臣ハ庶民金庫ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、検査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 主務大臣ハ特ニ庶民金庫監理官ヲ置キ庶民金庫ノ業務ヲ監視セシム

第三十六條 庶民金庫監理官ハ何時ニテモ庶民金庫ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

庶民金庫監理官ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ庶民金庫ニ命ジテ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

庶民金庫監理官ハ庶民金庫ノ諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十七條 役員ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第七章 罰則

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ庶民金庫ノ理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ
二 本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタルトキ

三 第十八條ノ規定ニ違反シ業務上ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ

四 第十九條又ハ第二十一條第二項ノ規定ニ違反シ庶民債券ノ發行ヲ爲シ又ハ償還ヲ爲サザルトキ

五 主務大臣ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

六 第三十六條ノ規定ニ依ル庶民金庫監理官ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ命ズル報告ヲ爲サザルトキ

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ庶民金庫ノ理事長、理事又ハ監事ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 第三十條ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置
カザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事
項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタ
ルトキ又ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ閱
覽ヲ拒ミタルトキ

第四十條 第十條ノ規定ニ違反シ庶民金庫
又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者八十
圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス
第四十一條 非訟事件手續法第二百六條乃
至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之
ヲ準用ス

附則

第四十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ
之ヲ定ム

第四十三條 主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ庶
民金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理
セシム

第四十四條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主務
大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十五條 定款ニ付主務大臣ノ認可アリ
タルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資ノ拂
込ヲ稟請スベシ

第四十六條 政府ノ出資ノ拂込アリタルトキ
ハ庶民金庫ハ之ニ因リテ成立ス此ノ場合
ニ於テハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務ヲ
庶民金庫理事長ニ引續クベシ

第四十七條 政府ハ第五條ノ規定ニ依リ交
付スル爲昭和十三年度ニ於テ額面千萬圓
ヲ限リ三分半利附公債ヲ發行スルコトヲ
得

第四十八條 第十條ノ規定ハ本法施行前ヨ
リ行政官廳ノ許可又ハ認可ヲ受ケ使用ス
ル名稱ニハ之ヲ適用セズ

第四十九條 登録稅法第十九條第七號中
「産業組合中央會」ノ下ニ「庶民金庫」
ヲ「産業組合法」ノ下ニ「庶民金庫法」ヲ
加ヘ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

十八 庶民金庫ノ業務ノ用ニ供スル不
動産ニ關スル登記

第五十條 印紙稅法第五條中第六號ノ次ニ
左ノ一號ヲ加フ

六ノ二 庶民金庫ノ業務ニ關スル證書
帳簿及庶民債券



高甲第一四號

案起

昭和十三年三月二十五日

閣議決定

昭和十三年三月二十五日施行

裁可

昭和十三年五月二十五日公布

內閣總理大臣 

內閣書記官長

內閣書記官



外務大臣



陸軍大臣



文部大臣



逓信大臣



厚生大臣



內務大臣



海軍大臣



農林大臣



鐵道大臣



大藏大臣



司法大臣



商工大臣



拓務大臣



別紙兩院ノ議決ヲ經タル昭和十二年法律第九十三號中改正法律案ヲ審査スルニ右ハ衆議院

議長上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

上諭 案

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル昭和十二年法律

第九十二號中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ

公布セシム

御名 御璽

昭和十三年五月二十四日

内閣總理大臣

大藏大臣

農林大臣

商工大臣

法律第八十五號

(上奏ノ通)

内閣

衆議院ハ兩院ノ議ヲ經タル
昭和十二年法律第九十二號中
改正法律案ノ裁可ヲ奉請ス

昭和十三年三月二十二日

衆議院議長小山松壽

衆議院書記官長田口弼一

昭和十二年法律第九十二號中左ノ通改正ス

第二條ノ二 前條ノ物品ノ需給ニ關係アル産業ヲ營ム者又ハ其ノ組織スル團體ハ當該物品ノ

需給關係ヲ調整スル爲政府ノ認可ヲ受ケ需給調整協議會ヲ組織スルコトヲ得

前項ノ者需給調整協議會ヲ組織セザル場合ニ於テ政府支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ者ニ對シ需給調整協議會ノ組織ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組織ヲ命ゼラレタル者其ノ認可ヲ申請セザルトキハ政府ハ規約ノ作成其ノ他組織ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

需給調整協議會ノ成立アリタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ會員トス

第二條ノ三 政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルト
キハ需給調整協議會ニ對シ當該物品ノ需給關係ノ調整ニ關シ必要ナル決定ヲ爲スベキコト
ヲ命ジ又ハ需給調整協議會ノ會員ニ對シ需給調整協議會ノ決定ニ從フベキコトヲ命ズルコ
トヲ得

第二條ノ四 本法ニ定ムルモノノ外需給調整協議會及需給調整協議會ニ依ル需給關係ノ調整

ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條中「前條」ヲ「第二條」ニ改ム
附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別紙奏上有之度候也

昭和十三年三月二十二日

衆議院議長 小山松



内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

以國務院大臣各領其事

總理大臣 小 山 公

衆議院書記官長 田 口 弼

明治二十九年三月廿九日



濟

曩ニ帝國議會ニ提出ノ儀上裁ヲ仰
ギタル昭和十二年法律第九十二號中
改正法律案中左ノ通訂正致度

記

第二條ノ四ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
第三條中「前條」ヲ「第二條」ニ改ム

昭和十三年一月二十九日法律

内

閣

昭和十三年一月二十九日

稻田内閣官房總務課長

院書記官 御中

正誤通知

昭和十二年法律第九十二號中改正法律案印刷物中

二頁 第二條ノ四ノ次ニ左ノ一項ヲ脫ス

第三條中「前條」ヲ「第二條」ニ改ム

内閣

第 號

起
昭和十三年一月十八日

裁可
昭和十三年一月十八日
施行

昭和十三年一月十九日

何

内閣總理大臣

内閣書記官長



内閣書記官

何

曩ニ帝國議會ニ提出ノ儀上裁ヲ仰ギタル昭和十二年法律第九十二號中改正法律案中訂正ノ儀左案ヲ以テ侍從長ヲ經相伺可然哉

伺案

曩ニ帝國議會ニ提出ノ儀上裁ヲ仰ギタル昭和十二年法律第九十二號中改正法律案中左ノ通訂正致度

記

第二條ノ四ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第三條中「前條」ヲ「第二條」ニ改ム

(白井納)

改正第一末尾ニ左ノ項ヲ追加スル事

第三條中「副條」ヲ「第二條」ニ改ム

右等諸ノ事リ何等宜ク御上候

二十一日

榊島千春

佐藤書記官殿

内閣



昭和十二年法律第九十二號中改正法律案帝國議會へ提出ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十三年一月二十五日

内閣總理大臣公爵近衛文麿



商甲一四

昭和十三年一月二十五日

昭和十三年一月二十二日

内閣書記官長



内閣書記官



内閣總理大臣 友

法制局長官



外務大臣

三

陸軍大臣

五

文部大臣

六

逓信大臣

七

厚生大臣

八

内務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

四

鐵道大臣

九

大藏大臣

興

司法大臣

商工大臣

三

拓務大臣

別紙大藏農林商工三大臣請議昭和十二年法律第九十二號中改正法律案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

去 制 司

閣議決定帝國議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法律案

呈案附箋ノ通

昭和十二年法律第九十二號中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

昭和十三年一月二十六日

員へ

内閣總理大臣

大藏大臣

農林大臣

商工大臣

法制局商第一一號
一月十八日

閣商第七號

昭和十二年法律第九十二號中改正法律
制定、必要有之第七十三回帝國議會
提出致度別紙法律案竝ニ理由書ヲ具シ
此段閣議ヲ請フ

昭和十三年一月十八日

商工大臣 吉野信次

大藏大臣 賀屋興宣



極島

商甲一四

商工省

農林大臣伯爵有馬頼寧

内閣總理大臣伯爵近衛文麿殿



昭和十二年法律第九十二號中左ノ通改正ス

第二條ノ二 前條ノ物品ノ需給ニ關係アル産業ヲ營ム者又ハ其ノ組

織スル團體ハ、
當該物品ノ需給關係ヲ調整ス

ル爲政府ノ認可ヲ受ケ需給調整協議會ヲ組織スルコトヲ得

前項ノ者需給調整協議會ヲ組織ノ進行ヲ確保スル爲特ニ必要ア

リト認ムルトキハ前項ノ者、
ニ對シ需給調整協議會ノ組織

ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組織ヲ命ゼラレタル者、
其、

ノ認可ヲ申請セザルトキハ政府ハ規約ノ作成其ノ他組

織ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

需給調整協議會ノ成立アリタルトキハ勅令ノ定ムタル資格ヲ有スル者ハ其ノ會員トス

第二條ノ三 政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ需給調整協議會ニ對シ當該物品ノ需給關係ノ調整ニ關シ必要ナル決定ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ需給調整協議會ノ會員ニ對シ需給調整協議會ノ決定ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二條ノ四 本法ニ定ムルモノノ外需給調整協議會ニ依ル需給事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

敬
公

附
則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

佐印

昭和十二年法律第九十二號中改正法律案理

時局ノ進展ニ伴ヒ重要物品ノ需給ヲ調整スル爲必要ニ應ジ當該物品ヲ需給ニ關係アル産業ヲ營ム者ヲシテ需給調整協議會ヲ組織セシメ需給關係ノ調整ニ關シ必要ナル事項ノ決定實施ヲ爲サシムルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

参照

輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律案

昭和十一年九月
法律第九十一號

總理、外務、大藏、農林、
商工大臣副署



第一條 政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ

命令ノ定ムル所ニ依リ物品ヲ指定シ輸出又ハ輸入ノ制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第二條 政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ
輸入ノ制限其ノ他ノ事由ニ因リ需給關係ノ調整ヲ必要トスル物品ニ付左ノ措置ヲ爲スコト
ヲ得

一 命令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ原料トスル製品ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ又
ハ制限ヲ爲スコト

二 當該物品又ハ之ヲ原料トスル製品ノ配給、讓渡、使用又ハ消費ニ關シ必要ナル命令ヲ爲
スコト

第三條 政府ハ第一條ノ制限若ハ禁止又ハ前條ノ命令若ハ處分ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徵

シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第四條 第一條ノ規定ニ依リテ爲ス制限又ハ禁止ニ違反シテ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物品ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第五條 第二條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分又ハ其ノ命令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 第三條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第七條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ前三條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前三條ノ罰金刑ヲ科ス

第八條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ支那事變終了後一年內ニ之ヲ廢止スルモノトス

昭和十二年法律第九十二號中改正法律案

昭和十二年法律第九十二號中左ノ通改正ス

第二條ノ二、前條ノ物品ノ需給ニ關係アル産業ヲ營ム者又ハ其ノ組織スル團體ハ當該物品ノ需給關係ヲ調整スル爲政府ノ認可ヲ受ケ需給調整協議會ヲ組織スルコトヲ得

前項ノ者需給調整協議會ヲ組織セザル場合ニ於テ政府支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ者ニ對シ需給調整協議會ノ組織ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組織ヲ命ゼラレタル者其ノ認可ヲ申請セザルトキハ政府ハ規約ノ作成其ノ他組織ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

需給調整協議會ノ成立アリタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ會員トス

第二條ノ三 政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルト
キハ需給調整協議會ニ對シ當該物品ノ需給關係ノ調整ニ關シ必要ナル決定ヲ爲スベキコト
ヲ命ジ又ハ需給調整協議會ノ會員ニ對シ需給調整協議會ノ決定ニ從フベキコトヲ命ズルコ
トヲ得

第二條ノ四 本法ニ定ムルモノノ外需給調整協議會及需給調整協議會ニ依ル需給關係ノ調整
ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年法律第九十二號中改正法律案理由書

時局ノ進展ニ伴ヒ重要物品ノ需給ヲ調整スル爲必要ニ應ジ當該物品ノ需給ニ關係アル産業ヲ營ム者ヲシテ需給調整協議會ヲ組織セシメ需給關係ノ調整ニ關シ必要ナル事項ノ決定實施ヲ爲サシムルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

参照

昭和十二年法律第九十二號ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律ナリ

商甲五五

昭和十三年 五月三十一日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣	陸軍大臣	文部大臣	逓信大臣	厚生大臣
内務大臣	海軍大臣	農林大臣	鐵道大臣	
大藏大臣	司法大臣	商工大臣	拓務大臣	

別紙商工大臣請議昭和十三年法律
第五號ノ施行期日ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

十

去 司 局



閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕昭和十三年法律第五號辦理士法中改正法律施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年六月三日

内閣總理大臣

司法大臣

商工大臣

呈案附箋ノ通



祕發第二九六號

昭和十三年五月三十一日

商工大臣 池田成彬 印

內閣總理大臣公爵近衛文麿 殿

本年五月二十日付閣商第五八號請議辨理士法施行令中改正ノ件竝同月廿五日付閣商第六〇號請議辨理士法中改正法律施行期日ヲ定ムル勅令ハ前大臣ヨリ請議相成居候處本件ハ急ヲ要シ候ニ付其儘進行方御取計相成度此段申進候也

內閣

法制局

佐藤

法制局商第四五号

主任 特許局 越智事務官 五月廿五日

閣商第六〇號

昭和十三年法律第五號、施行期日ヲ定ムル
爲勅令制定ノ必要有之候條別紙勅令案
竝ニ理由書ヲ具シ此段閣議ヲ請フ

昭和十三年五月二十五日

商工大臣吉野信次



内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

商甲五五

百二五



勅令第四百號

昭和十三年法律第五號ハ昭和十三年六月六日ヨリ之ヲ施行ス

111

理由書

昭和十三年法律第ニヲ定ムルノ要アルニ由ル

參照

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル辨理士法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年三月七日

内閣總理大臣	公爵 近衛 文麿
司法大臣	鹽野 季彦
商工大臣	吉野 信次

法律第五號 (官報 三月八日)

辨理士法中左ノ通改正ス

「農商務大臣」ヲ「商工大臣」ニ改ム
第一條 辨理士ハ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關シ特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ

昭和十三年三月 法律 第五號

代理及其ノ事項ニ關スル鑑定其ノ他ノ事務ヲ行フコトヲ業トス

第二條 第一項第一號中「私法上ノ能力者」ヲ「成年者」ニ改ム

第三條 第二號中「若ハ司法科試驗又ハ判事檢事登用試驗」ヲ「又ハ司法科試驗」ニ改ム

第四條 削除

第五條 左ニ掲クル者ハ辨理士タル資格ヲ有セス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第二十二條若ハ第二十二條ノ四、特許法第二百十九條、第三百十條若ハ第三百二十三條、實用新案法第二十七條、第二十八條若ハ第三十一條、意匠法第二十六條、第二十七條若ハ第三十條又ハ商標法第三十四條若ハ第三十五條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過セサルモノ

三 懲戒ノ處分ニ因リ免官若ハ免職セラレタル者、本法若ハ計理士法ニ依リ業

務ヲ禁止セラレタル者又ハ辯護士法ニ依リ除名セラレタル者ニシテ免官、免職、業務禁止又ハ除名ノ日ヨリ起算シ二年ヲ經過セサルモノ

四 本法ニ依ル業務停止ノ期間中業務ヲ廢止シ未タ其ノ期間ノ經過セサル者

五 禁治產者又ハ準禁治產者

六 破產者ニシテ復權ヲ得サルモノ

第九條 辨理士ハ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關スル事項ニ付裁判所ニ於テ當事者又ハ訴訟代理人ト共ニ出頭シ陳述ヲ爲スコトヲ得其ノ陳述ハ當事者又ハ訴訟代理人カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正セサルトキハ自ラ之ヲ爲シタルモノト看做ス

務ヲ禁止セラレタル者又ハ辯護士法ニ依リ除名セラレタル者ニシテ免官、免職、業務禁止又ハ除名ノ日ヨリ起算シ二年ヲ經過セサルモノ

四 本法ニ依ル業務停止ノ期間中業務ヲ廢止シ未タ其ノ期間ノ經過セサル者

五 禁治產者又ハ準禁治產者

六 破產者ニシテ復權ヲ得サルモノ

第九條 辨理士ハ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關スル事項ニ付裁判所ニ於テ當事者又ハ訴訟代理人ト共ニ出頭シ陳述ヲ爲スコトヲ得其ノ陳述ハ當事者又ハ訴訟代理人カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正セサルトキハ自ラ之ヲ爲シタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依リ帝國臣民ニ非サル辨理士出頭シテ陳述ヲ爲サントスルトキハ裁判所ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條ノ二 辨理士ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ辨理士會ノ會員トス

第十五條 辨理士會ノ組織、權限及監督ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 辨理士會ハ商工大臣ノ認可ヲ得テ會ノ秩序又ハ信用ヲ害スル虞アル者ヲ退會セシムルコトヲ得

第二十二條ノ二 辨理士ニ非サル者ハ報酬ヲ得ル目的ヲ以テ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關シ特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ代理又ハ其ノ事項ニ關スル鑑定若ハ書類ノ作成ヲ爲スヲ業トスルコトヲ得ス

前項ノ書類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條ノ三 辨理士ニ非サル者ハ利益ヲ得ル目的ヲ以テ辨理士、特許事務所其ノ他之ニ類似スル名稱ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十二條ノ四 第二十二條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ従前ノ規定ニ依リテ辨理士タル資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ資格ヲ有ス

本法施行ノ日ヨリ三年以内ニ従前ノ第四條第二號ノ規定ニ該當スルニ至リタル者ニ對シテハ本法施行後ト雖モ仍従前ノ第四條第二號ノ規定ヲ適用ス

本法施行ノ日ヨリ五年以内ニ従前ノ第四條第三號ノ規定ニ該當スルニ至リタル者ニ對シテハ本法施行後ト雖モ仍従前ノ第四條第三號ノ規定ヲ適用ス

本法施行ノ際現ニ辨理士會ニ加入シ居ラサル辨理士ニ付テハ本法施行後三月間ハ第十二條ノ二ノ規定ヲ適用セス右期間内ニ従前ノ例ニ依リテ辨理士會ニ加入セザルトキハ其ノ辨理士ノ登錄ハ效力ヲ失フ

特許法第二十條及第三百二十五條、實用新案法第三十三條、意匠法第三十二條並ニ商標法第三十八條ハ之ヲ削除シ實用新案法第二十六條中「第十條乃至第三十三條」ヲ「第十條乃至第十九條、第二十一條乃至第三十三條」ニ、意匠法第二十五條中「第十六條乃至第三十條」ヲ「第十六條乃至第十九條、第二十一條乃至第三十條」ニ、商標法第二十四條中「第十六條乃至第三十條」ヲ「第十六條

乃至第十九條、第二十一條乃至第三十條」ニ改ム

本法施行前従前ノ特許法第三百二十五條、實用新案法第三十三條、意匠法第三十二條又ハ商標法第三十八條ノ規定ヲ適用スヘカリシ行爲ニ付テハ仍従前ノ規定ニ依ル但シ懲役トアルハ禁錮トス

従前ノ特許法第三百二十五條、實用新案法第三十三條、意匠法第三十二條又ハ商標法第三十八條ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ハ第五條第二號ノ改正規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第二十二條ノ四第一項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ト看做ス

商甲五四

昭和十三年五月三十一日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十三年五月廿四日

濟

内閣總理大臣 齋藤

法制局長官

外務大臣

齋藤

陸軍大臣

齋藤

文部大臣

齋藤

遞信大臣

齋藤

厚生大臣

齋藤

内務大臣

齋藤

海軍大臣

齋藤

農林大臣

齋藤

鐵道大臣

齋藤

大藏大臣

齋藤

司法大臣

齋藤

商工大臣

齋藤

拓務大臣

別紙商工大臣

請議

辦理士法施行

行令中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

十一

去 司

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕辨理士法施行令中改正ノ件ヲ裁可之茲
ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年六月三日

内閣總理大臣

文部大臣

商工大臣

呈案附箋ノ通

昭和十三年五月三十一日

商工大臣池田成彬



内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

本年五月二十日付閣商第五八號請議辦理
士法施行令中改正、件並同月廿五日付閣商
第六〇號請議辦理士法中改正法律施行
期日ヲ定ムル勅令ハ前大臣ヨリ請議相成居

候處本件ハ急ヲ要シ候ニ付其儘進行方
御取計相成度此段申進候也

士志以行令中如五ノ事茲同月十五日甘閣商
本長上日二十日甘閣商第五八報請難辨野

大目合候世務文書類

商五六百五十四

細目十三卷五月二十一日

1515

法制局商第五四號

主任 特許局 山地事務官

五月廿日



閣商第五八號

昭和十三年法律第五號辦理士法中改正
法律ニ基キ辦理士法施行令中改正、必
要有之別紙勅令案及理由書ヲ具シ此段
閣議ヲ請フ

昭和十三年五月二十日

商工大臣吉野信



内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

商甲 五四

商 工 省

閣内官房總務課
13.5.20
庶務

勅令第四百一號

辨理士法施行令中左ノ通改正ス

第三條

委員長、常任委員及臨時委員ハ各廳高等官、辨理士及學識アル者ノ中ヨリ商工大臣之ヲ命ス

第五條中「又ハ第二十六條」ヲ削ル

第六條 削除

第七條中「十圓」ヲ「十五圓」ニ改ム

第八條 試験ヲ分チテ豫備試験及本試験トス
豫備試験ニ合格シタル者ニ非サレハ本試験ヲ受クルコトヲ得ス

第八條ノ二 豫備試験ハ受験者カ本試験ヲ受クルニ相當ナル學識ヲ

有スルヤ否ヤヲ考試スルヲ以テ目的トス

第八條ノ三 豫備試験ハ論文及、外國語ニ付之ヲ行フ

外國語試験ハ英語、佛語及獨語ノ中ニ就キ受験者ヲシテ豫メ一種
ヲ選擇セシメ之ヲ行フ但シ受験者ノ願ニ依リ他ノ外國語ヲ以テ之
ニ代フルコトアルヘシ

第八條ノ四 豫備試験ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル
者ナルコトヲ要ス

一 中學校ヲ卒業シタル者

二 文部大臣ニ於テ普通教育ニ關シ中學校ヲ卒業シタル者ト同等
以上ノ學力ヲ有スト定メタル者

三 辨理士試験委員ニ於テ普通教育ニ關シ中學校ト同等以上ト認
ムル外國ノ學校ヲ卒業シタル者

四 前各號ニ掲クル者ノ外文部大臣ノ定ムル所ニ依リ國語及漢文、
歴史、地理、數學並ニ物理及化學ニ付中學校卒業程度ニ於テ行

フ試験ニ合格シタル者

第八條ノ五 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ豫備試験ヲ免ス

- 一 高等學校高等科ヲ卒リ又ハ大學豫科ヲ修了シタル者
- 二 文部大臣ノ定ムル所ニ依リ高等學校高等科ヲ卒リ又ハ大學豫科ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スト認ムル者
- 三 辨理士試験委員ニ於テ高等學校高等科ト同等以上ト認ムル外國ノ學校ヲ卒業シタル者
- 四 特許局ニ於テ判任以上ノ官ニ在職シテ五年以上審査ノ事務ニ從事シタル者

豫備試験ニ合格シタル者ハ爾後豫備試験ヲ免ス

第八條ノ六 本試験ハ受験者カ必要ナル學識及其ノ應用能力ヲ有スルヤ否ヤヲ考試スルヲ以テ目的トス

第八條ノ七 本試験ハ筆記及口述トス筆記試験ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第八條ノ八 辨理士試験委員ニ於テ必要ト認ムル科目ノ筆記試験及口述試験ハ受験者ニ法文其ノ他ノ參考資料ヲ示シテ之ヲ行フコト

ヲ得

第八條ノ九

行フ

必須科目

工業所有權法（特許、實用新案、意匠及商標ニ關スル法令及條約類）

選擇科目

一 憲法

二 行政法

三 民法

四 商法

五 刑法

六 民事訴訟法

七 刑事訴訟法

- 八 國際私法
- 九 經濟學
- 十 商品學
- 十一 材料力學
- 十二 構造力學
- 十三 機構學
- 十四 熱及熱機關
- 十五 水力學
- 十六 船體構造
- 十七 航空機理論及構造
- 十八 精密工學
- 十九 建築構造
- 二十 鐵筋コンクリート工學
- 二十一 測量學

- 二十二 綿絲紡績學
- 二十三 織物構造學
- 二十四 鑛山機械學
- 二十五 採鑛學
- 二十六 電氣理論
- 二十七 電氣機器
- 二十八 通信工學
- 二十九 送電及配電
- 三十 無機化學
- 三十一 有機化學
- 三十二 製造工業化學
- 三十三 物理化學
- 三十四 冶金學
- 三十五 製造冶金學

三十六 光學

三十七 藥化學

三十八 藥品製造學

三十九 農業機械學

四十 土壤學

四十一 水產製造學

選擇科目ハ受験者ヲシテ豫メ三科目ヲ選擇セシム
口述試験ハ必須科目ニ付之ヲ行フ

第八條ノ十 特許局ニ於テ判任以上ノ官ニ在職シテ五年以上審査ノ
事務ニ從事シタル者ニシテ本試験ヲ受ケントスルモノニ付テハ受
驗者ノ願ニ依リ工業所有權法ノ試験ヲ免ス

第八條ノ十一 本試験ノ筆記試験ニ合格シタル者ニ付テハ受験者ノ
願ニ依リ翌年ニ限り筆記試験ヲ免ス

第九條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケントシタル者又ハ試験ニ關ス

ル規程ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ試験ヲ停止シ其ノ合格ヲ無效トス

前項ノ規定ニ該當スル者ニ對シテハ三年以内ニ於テ期間ヲ定メ試験ヲ受ケシメサルコトヲ得

第十三條中「住所」ノ下ニ「證スル書面ヲ添附シ」ノ下ニ「辨理士會ヲ經由シテ」ヲ加フ

第十五條中「登録ヲ拒否シタルトキハ」ノ下ニ「辨理士會ヲ經由シテ」ヲ加フ

第十七條 特許局長官ハ辨理士登録簿ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 氏名、住所及本籍

- 二 事務所

- 三 登録年月日

- 四 登録番號

- 五 登録抹消ノ年月日及其ノ事由